

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1 実践校について

実践校名	(ながのけんさかきこうとうがっこう) 長野県坂城高等学校	
学科名	生徒数	学級数
普通科	320名	12クラス

2 実践研究の対象

全校生徒

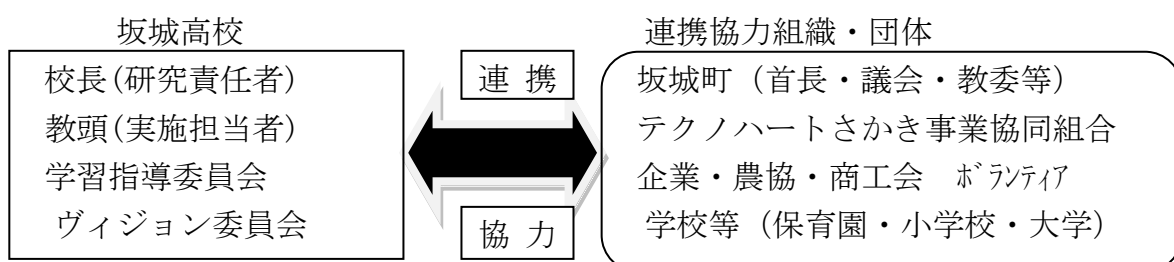
3 実践研究の実施経過

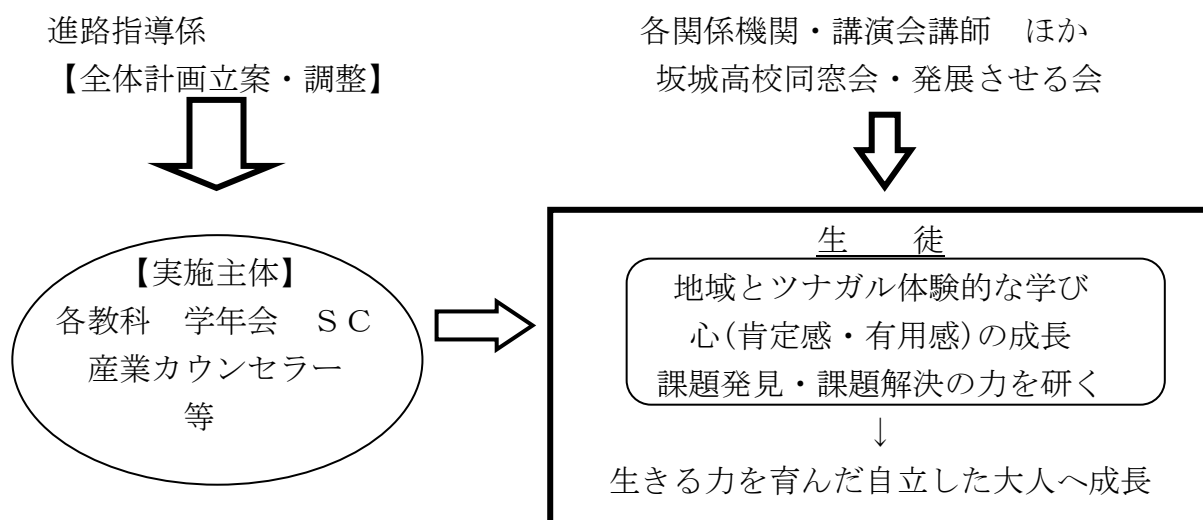
平成 29 年 度	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○準備会 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の趣旨・目標について確認 ・実施計画の確認 ○1年 校長講話 教頭講話 進路指導主事講話 ○2,3年 進路指導主事講話 ○1年 情報モラル講話 <ul style="list-style-type: none"> 【長野県警察本部生活安全部生活環境課 前橋 浩氏】 ○1年 性被害防止指導 <ul style="list-style-type: none"> 【セーフティネット総合研究所 南澤信之氏】 ○1年 SST体験【スクールカウンセラー 栗原博士氏】 ○2年 職業理解講座（インターンシップに向けて） <ul style="list-style-type: none"> 【ライセンスアカデミー東京事業部 南雲幹治氏】 ○3年 就職希望者の進路指導主事との面談 ○3年 職業レディネステスト ○3年 さかきバラ祭り・バラ観察（生物） ○3年 G A T B（職業適正検査）
--------------------	----	--

5月	<ul style="list-style-type: none"> ○3年 第1回進路ガイダンス 面接対策講座 【コミュニケーションズ・アイ 高橋知也氏】 ○主権者教育出前授業（政治経済） 【坂城町役場 関貞巳氏・井上敬子氏】 ○1,2年 薬物乱用防止講演会【長野ダルク 竹内剛氏】 ○3年 公務員講座 【大原学園】 ○3年 中村文昭氏DVD講演【キッズコーポレーション】 ○全校講演会「過去から学び未来へ受け継ぐ 平和と希望」 【清水まなぶ氏】
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年 保育体験事前学習【受け入れ先保育園】 ○2年 インターンシップマナー講習【石田陽一郎氏】 ○2年 進路ガイダンス（フューチャーライブ講座と分野別ガイダンス） 【ライセンスアカデミー】 ○2年 小論文・マインドマップ応用講座② 【キッズコーポレーション】 ○3年 上田地区の事業所見学会（希望者） ○3年 第2回進路ガイダンス面接講演会（分野別） 【キッズコーポレーション】 ○3年 坂城町議会傍聴（政治経済） ○1年 進路講演会 【さんぼう 酒井利典氏】 ○3年 バラの挿し木実習（生物）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○全校 卒業生進路講話 ○2年 インターンシップ（3～5日） ○3年 第3回進路ガイダンス（履歴書の書き方） 【キッズコーポレーション】 ○3年 第4回進路ガイダンス（面接指導）【大原学園】 ○3年 第5回進路ガイダンス（面接指導分野別）【大原学園】 ○3年 バラの栽培管理・観察（生物）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年 文化祭にて保育体験発表 ○2年 インターンシップ（3～5日） ○3年 就職者応募前見学 ○3年 進路・職業相談【産業カウンセラー 小林郁朗氏】 ○3年 バラの栽培管理・観察・鉢上げ（生物） ○3年 文化祭にてバラ観察・挿し木実習・栽培管理等の発表（生物）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○2年 進路ガイダンス 分野別分科会（2分野体験授業） 【キッズコーポレーション】 ○1年 働き方&収入ワーク【ライセンスアカデミー】 ○1年 我武者羅応援団DVD講演【キッズコーポレーション】 ○3年 就職希望者模擬面接 ○3年 就職試験開始

	<ul style="list-style-type: none"> ○3年 進路・職業相談【産業カウンセラー 小林郁朗氏】 ○3年 ねずみ大根の播種・観察（生物）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○2年 「坂城町ものづくり展」に参加（見学） ○1年 進路指導主事講話 ○1年 フューチャーライブと職業別分科会 【ライセンスアカデミー】 ○3年 ねずみ大根の間引き・草取り・観察（生物）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○3年 ねずみ大根の収穫（生物） ○2年 進路・職業相談【産業カウンセラー 小林郁朗氏】 ○1年 職業適性検査 【さんぽう】 ○1年 事業所見学
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○2年 インターンシップ発表会準備 ○2年 進路・職業相談【産業カウンセラー 小林郁朗氏】 ○2年 進路指導主事講話 ○2, 3年 中村文昭氏のDVD講演【キッズコーポレーション】
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年 体験型進路ガイダンス 【さんぽう】 ○2年 インターンシップ発表会準備 ○2年 インターンシップ発表会 ○1年 高校生のためのスマホ安全活用講座 【埼玉工業大学 植竹裕一氏】 ○1年 「バリアバリューで世界を変える」垣内俊哉氏のDVD講演【キッズコーポレーション】 ○3年 健康学習 性とライフデザインについて【高見沢しま子氏】 ○2年 進路ガイダンス 履歴書の書き方【さんぽう】
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○全校講演会 「何のために」 【中村文昭氏】 ○2年 進路指導主事講話 ○2年 篠ノ井管区の事業所見学（希望者） ○3年 献血セミナー 【長野赤十字献血センター】 ○2年 職業理解懇談 【産業カウンセラー 小林郁朗氏】 ○3年 「未成年のための法律教室」【司法書士 須藤亮氏】 ○3年 ねずみ大根の「おしぼりうどん」調理実習（生物）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○2年 インターンシップ（希望者）

4 実践研究の実施体制





※外部連携先との連絡調整や企画立案への助言、生徒への事前指導や活動支援の為に、産業カウンセラー(外部講師)を活用する。

5 教育委員会等として取り組んだ内容

- ・実践校に対して円滑な運営のための適切な助言や指導を行った。
- ・報道機関などへの情報提供による広報活動を行った。
- ・実践校の調査研究成果の普及に努めた。

6 実践研究の評価等

(1) 評価について

- ①活動について、生徒・教職員のアンケートを実施し、昨年度の反省を生かし今年度の活動の成果や課題に取り組み、一部分のみの評価にならないようにする。また、各活動のまとめをしっかり行う。
- ②昨年度に引き続き、学校評議員・保護者・坂城高校を発展させる会、連携協力者に、本事業に係る活動についてのご意見をいただいた。
- ③本研究、学習成果を報告書に生徒がまとめ、発表会にてパワーポイントでグループごとに発表し、連携者や地域の方々に公開して評価をいただいた。

(2) 実施体制について

- ①校内における実施主体の中心は、今年度も進路指導係のキャリア教育担当であったが、本事業に係るそれぞれの実施内容の企画、立案、運営、取りまとめなどを、通常業務を行いながらやっていくことは小規模校である本校にとって大変難しいものであった。
- ②本校で主軸を置いているキャリア教育をより充実させるため、実社会との関わりの中で、町内を中心とした外部の機関等とより連携を密に外部との関わりを持てる教員を増やすことができた。今後さらに町との連携を深め、生徒が実社会との関わりをより強く感じることでできる活動をするために、そうした教員により地域をキャンパスにした教育活動ができる体制を組んで本校の教員が個々に町と関わっていく体制を組む。
- ③より多くの外部の方々に講演・連携を依頼し、生徒が実社会の生の声に接する場を増

やす。また、社会に出てから必要とされる人材となるために、高校でどんな資質や力を身につけていく必要があるかについて、もう少し時間をかけて全職員の共通理解を深める必要があった。

(3) 実施計画・内容について

- ①今年度は、全教職員に、運営、情報の共有、本事業の目標や意義などについての共通認識をしたうえで、より有効な活動ができるよう計画することができた。
- ②年度当初につける力を決め、そのために実社会との接点を重視しながらどのような学習内容や活動を行うべきか検討して実施した。
- ③生徒が実社会に出て行くにあたり進路指導の充実を図るため、職員が専門学校へ出向いて職業についての研修をし、生徒が進路選択をするうえでより現実的な情報を提供できるようにした。また、高校段階のキャリア教育について、より効果的な活動を計画できるよう、本校教員がキャリア教育についての各種研修に参加し職員で情報共有を心掛けるようにした。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：長野県坂城高等学校（普通科）

概要

- 地元自治体や企業等の外部機関や地域の方々との連携を活用したキャリア教育を軸に据えた教育活動を通じて、社会性や主権者意識を育成し、自立した社会人として、地域と社会に貢献できる人材の育成のための学習プログラムを実践・研究する。

学習プログラムのねらい

- 実社会への準備段階として、より現実的な意識をもって学習に取り組めるよう、地域理解・職業理解などの学習や外部の方々との接点のある学習により、職業観や勤労観を育み、キャリア教育に対する意識・意欲と自己肯定感・有用感を高める。
- 社会で必要とされる資質について学習し、3C（コミュニケーション・コラボレーション・キャリア）の力を研ぎ、社会で有用とされる人間となるための具体的な資質の向上を図る。
- 自己の心を研ぎ、他者を受容する心を育むための活動や、社会につながっていくための活動をおし、自己理解・自己管理能力を高め、社会形成能力や人間関係形成能力などの資質向上を図る。

学習プログラムの主な内容

- ① 外部講師による講演・個別懇談
年間を通して、産業カウンセラーによる生徒への指導・助言・講演、個別懇談・相談を実施し職業観を醸成する。また、外部機関の各分野の専門の方や卒業生を講師に招き、社会人として身につける資質や必要なことについて講義をしていただく。
- ② 体験学習
キャリア教育の一環として、1年生全員が3回の保育体験を行う。秋には宿泊学習(AEプログラム等)を実施し、コミュニケーション力や他者理解についての実践力を養い、コラボレーションの力をつける学習をする。その他にも2年次以降の学習意識を高めるために地域の企業見学を計画する。2年生は、地域の企業等で、夏季休業期間中3日から5日間のインターンシップ活動、10月に町内で企画されている「さかきまちモノづくり展」に参加・出展し、地域や社会で必要とされる資質について学習する。
- ③ 校外実習と社会見学
3年の選択科目「政治経済」では、坂城町の職員にきていただき、行政の方から直接講義を受け、後日町議会傍聴をさせていただく。また、「生物」の授業においても昨年度に引き続き、町の在来種である特産の「ねずみ大根」の播種から収穫まで

体験する。他にもバラ園におけるバラの挿し木の実習を町内の専門家の指導のもとに行い、実社会を体感する学習を行う。

④ 発表活動

2年生は、研修を積んだ教員の指導のもと、グループ学習により、インターンシップの報告書や発表会のプレゼンに向けての学習活動を行い、1月の発表会においてパワーポイントを使って発表し、本事業の協力者・連携者や地域の方々から指導・助言をいただき、言語力、表現力、聞く力、伝える力を高める。

⑤ 地域との連携・協働活動

4月には、地域住民の皆さんと千曲川クリーンキャンペーンに参加する。その他、学年、クラス、生徒会の役員などが町の施設訪問、ボランティア等に参加する。その他に、毎月通学路周辺のごみ拾いを行う。環境美化の点でJRCクラブが、校内に花を植えるなどの植栽を行う。

学習プログラムの成果の概要

- 実社会で活躍する方やキャリア教育の各専門の方の講演により、実社会の生の声や経験を聞き、社会に出て行くための準備期間である高校生活をどう過ごすべきか、実社会において必要とされる人材となるために何が必要で、どう学習すべきかを現実的に考えることができるようになった。
- 体験学習において、コミュニケーション、コラボレーション、キャリアなどの力をつける学習ができ、意識の変化が現れるとともに、日常の学習活動に対する取り組みの意欲が向上した。
- 校外実習や社会見学により、地域を理解するとともに、地域社会の活性化などで社会に貢献する方々との交流により、地域・社会に貢献する意欲や態度を育む必要性を実社会で学ぶことができた。
- 学習のまとめや発表活動について、グループ学習により準備を進める中で、他者理解や協力・協調する大切さを感じるようになった。また、多くの人前でプレゼンテーションを行うことで、自信を深め自己肯定感も高まり、その後の学校生活の中であいさつも含めより積極的に活動できるようになった。
- 地域での活動、連携活動、協働作業を通して、地域に関わることの大切さを学び、地域について理解を深めることができ、地域を知ることによって郷土愛を深め、地域に必要とされる人間になることの大切さを学ぶことができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	(ながのけん はくばこうとうがっこう) 長野県白馬高等学校		
	学科名	生徒（児童）数	学級数
	普通科	139	4
	国際観光科	71	2
	全校計	210	6

2. 実践研究の対象

学年	学年人数	学科	クラス数・講座	総合的な学習の時間	人数
1年	76	普通	1クラス	総合学習	42
		国際観光	1クラス	白馬学(観光Ⅰ)	34
2年	75	普通	1クラス	総合学習	38
			理科(環境Ⅰ)講座		22
		国際観光	1クラス	白馬学(観光Ⅱ)	37
			理科(環境)講座		4
3年	59	普通	2クラス	総合学習	59
			理科(環境)講座		6

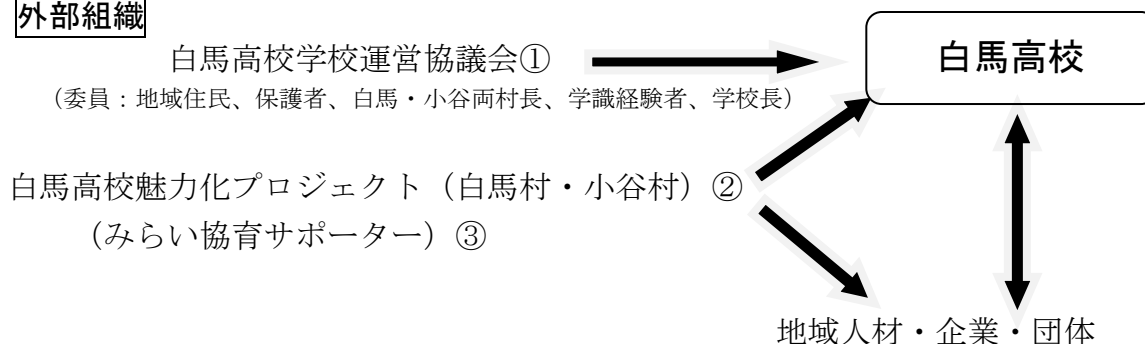
3. 実践研究の実施経過

	1年		2年		3年	理科(2・3年)
月	普通科	国際観光科	普通科	国際観光科	普通科	「環境」 「環境Ⅰ」
4	地域学習(地域を知る)		地域学習			スケッチ実習
5	地域学習(地域を知る)		地域学習			山菜実習
6	進路学習(「進路の日」)					生態観察 上高地巡検
	地域学習(地域を知る)		地域学習			
	チームビルディング					
7	地域学習(地域を知る)		地域学習		主権者教育	水生昆虫
8						フィールドワーク
9	進路学習(スポーツビジネス講演会)					岩石と地質
		探求 RESAS				

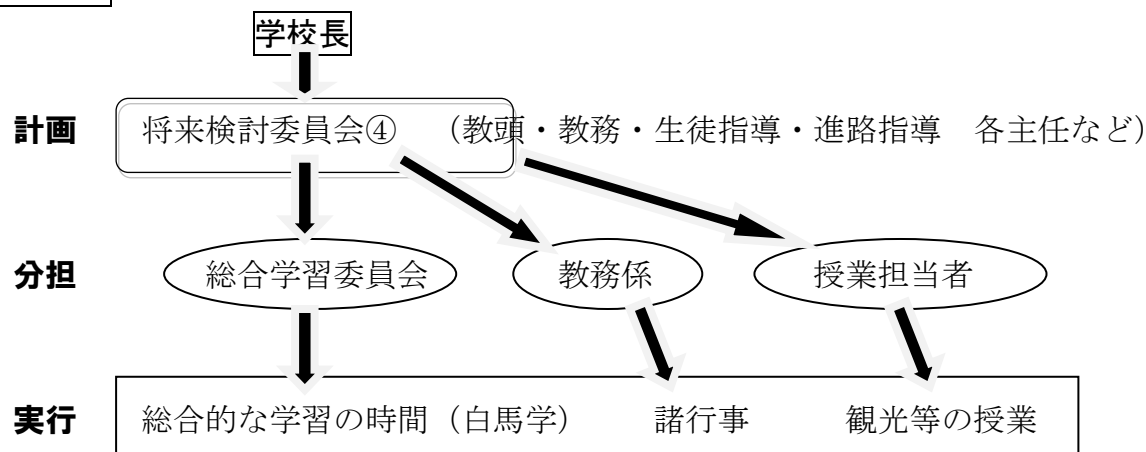
10	就 労 体 験	進 路 探 求 学 習 (Beyond School)	情報モラル教育	地域巡検等
	情報モラル教育 性被害防止教育			
	探求 RESAS			
11	販売実習 探求 RESAS			菌類観察等
12	探求 RESAS		税務講演会	放射線測定
1	宿泊プラン作成 探求 RESUS		消費生活 学習	冬の自然 学習発表会
	2	宿泊プラン作成 探求 RESUS	ペンション実習	
3	宿泊プラン作成 探求 RESUS		ペンション実習	
	キャリアカウンセリング①・②			
はくば山麓探求学習発表会				

4. 実践研究の実施体制

外部組織



校内組織



①広く地域社会に開かれた学校（コミュニティスクール）を目指す目的で設置した組織が、学校運営の基本方針と教育活動に関して助言と承認を行う。

②白馬・小谷両村が、白馬高校の教育活動等の支援と調整をするために設置した主体。

③両村が設置した、地域連携授業やキャリア教育などを行うための企業団体・人材バンク。

④各主任と教頭などより構成される。計画の原案や方針・分担を決める。

5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- ・実践校に対して円滑な運営のための適切な助言や指導を行った。
- ・報道機関などへの情報提供による広報活動を行った。
- ・実践校の調査研究成果の普及に努めた。

6. 実践研究の評価等

本校における地域との連携授業や環境教育は、以前より実践があったので、担当者より直接地域の個人や団体と連絡が図られ、地域社会との連携は比較的スムーズに取り組むことができた。

校内の評価としては、学年末に生徒による評価と各学年・担当教科による自己評価を実施した。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：長野県白馬高等学校（普通科・国際観光学科）

概要

- 地域の教育資源を生かした地域連携による教育活動を通じて、郷土を知り愛する気持ちと社会性を身につけ、自ら進路を切り拓く力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- 郷土愛と観光の原点である地域の自然環境と歴史文化を学び、国際的観光地である白馬地域の独自性を意識させ、郷土を大切にできる心と実践力を身につける。
- 年齢の違う地域の大人の指導を受ける中で、様々な価値観を知り、交流を通して社会性を身につける。
- 進路学習、就業体験、主権者教育などから、社会の仕組みを理解し、勤労の大切さを学び、主体的に行動できる人材を育成する。

学習プログラムの主な内容

類型Ⅱ

ア 政治的主体となること（政治参加）

① 外部講師による主権者教育講演会の実施

行政との共催で、外部講師として招き、「18歳選挙制についての概要」と題して講演会を行った。

イ 経済的主体となること（職業理解と就業体験）

① 地元企業による就業体験

事前学習で職業の体系を知り、マナーを身につけて、体験に臨む。地元の職場で3日間の実習を行う。事後はお礼状の書きかた指導をして、社会人としての常識を学ぶ。

② 白馬村商工会との連携「北アルプス山麓ブランド」販売実習

白馬商工会の協力により、地域ブランド「北アルプス山麓ブランド」の販売促進のための首都圏での物産品展において販売実習を行った。

③ 白馬村商工会との連携「キャリアカウンセリング」

④ 「進路の日」の実施

将来の職業に合わせて、それぞれの分野の教育機関を訪れ、進路意識を高める。

⑤ 進路探求学習（Beyond School）

大学生や大学院生がメンターとなり、グループワークを実施することにより、自分の進路未来予想図を作成する。

⑥ スポーツビジネス講演会

スキーや山岳等のアウトドアスポーツに親しんでいる生徒が多い中で、将来の職業選択の可能性の一つとしてスポーツビジネスをとらえるきっかけとして講演会を実施する。

イ 経済的主体となること（消費生活）

①「高校生のためのマナートラブル防止講座」の実施

ウ 法的主体になること（財政と税金）

①「税務講演会 税金の基礎知識」の実施

社会人になる3年生に、税金制度の知識と意義を身につけさせる。

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となること

①白馬探求プロジェクト（RESASを活用した探求型学習）

「観光Ⅰ・白馬学」の授業で、RESASを活用し量的データと現地フィールドワークやインタビュー調査を通しての質的データを組み合わせて地域の現状と課題について考察をする。また、学校内外で、そのまとめを発信する。

②「学校における」情報発信・情報モラル教育講演会

1・3年生を対象に、「外部講師を招いて学校における情報発信・情報モラル教育講演会」を実施した。

③スマホ・携帯・性被害防止講座

1年生対象に情報マナー教室を実施。長野県警察署から講師を招き、スマホ・携帯やインターネットの正しい使用方法を講義。

オ その他（地域の社会的主体となること）

①地域学習（地域を知る学習）

「観光Ⅰ・白馬学」「総合学習」の授業で地域の文化と歴史を学び、尊重する態度を育てる。（1年国際観光科・普通科）

②地域学習（地域資源の探し方）

「観光Ⅰ・白馬学」「総合学習」の授業で地域資源の探し方について、松本大学連携した、フィールドスタディを実施（1学年国際観光科・普通科）

③ヤフー株式会社と連携した宿泊プランの企画・販売

④小規模宿泊施設実習（高校生ペンション実習）

⑤「環境」、「環境Ⅰ」の授業でフィールドワークを行い、地域の自然環境を体験を通して学ぶ。実地調査や観察を通して、白馬地域の自然環境を知り、環境を大切にすることを育む。

⑥1年生の総合的な学習の時間に、チームビルディング演習を実施、クラスの団結や社会集団を構成するためのスキルを学んだ。

学習プログラムの成果の概要

- 郷土の環境と歴史を大切にする気持ちが育ったか。地域を担う社会人として主産業である観光に関心を持ち、郷土を大切にする気持ちが育ったか。
- 様々な年代の地域の社会人と交流することができたか。
- 社会を知り勤労の大切さを学ぶことができたか。